

# 「木津川・煤谷川沿川における

## 水辺空間と人の関わり、その変遷を探る」

京都造形芸術大学環境デザイン学科 木津川チーム

調査というよりは、川を知ってゆくプロセスを大切に・・・

### ・フィールドミュージアムという考え方

現地にあるものを情報とともに見ることができること。町全体が博物館。

サテライト（現地の見所一つ一つの見学）の中で川に着目

特別な見所はないが、時代ごとの川のうつり変わりの中に文化や歴史、又はそれを紐解くカギが隠れているのでは？

### 行なったこと

現地を歩く

木津川シンポジウムに参加

歴史的にどんな形がどんな歴史から出てきたか

柳川掘割ものがたりの鑑賞

時代ごとの地図の見比べ

現地インタビュー

川に対する思い出の場所はどの辺りか等を聞き、複数年層が同じ所を挙げられたなら、そこはその地域の川として重要な意味のある場所ではないか？

### 現地を歩いて

歩いた範囲は精華町の1部

木津川支流煤谷川河口部、人の出入りの無い所（ゴミの痕跡も見当たらず）において崩壊しつつあるコンクリート構造物を発見

上流へ歩いてゆくと竹林があったところが、整地されて真平に。

ほとんど水がなく、現地の人の話では減っているらしい

ニュータウン隣接の影響？

さらに上流へ 農業溜池を発見。他の集落がその上流々々へと溜池を作っていてい  
る（柳川堀川物語と同じ）。使われなくなった溜池を生かそうとワークショップが立ち  
上がっていた。初めは管理をしている水理組合が消極的だった。しかし、前理事長の  
意見「住民がこれほど関心を持ってきているのに、それに応えねば・・・」により  
整備が行なわれる方向へ向かい、今後はどうなるか（今はここまで）。

ここで一言 煤谷川河口部の荒れ果てたコンクリート構造物について

近くに自衛隊弾薬支所があり、陸軍時代の軍の施設であり転用の恐れ、もし  
くは自爆により壊された構造物の跡では？当時産廃へあてる余力が無かった  
のではないか？

砂防堰堤？

昔は使った水を木津川へ返すための水路があり、煤谷川の地下を煤谷川と交  
差する形で通っていた（事実）それが建設用の砂利取りなどで煤谷川の河床  
と水深が下がることによって現れたのではないか？

川は色々なものが痕跡的に残る場所

さらに上流へ行くと道路に沿った長い直線区間、単純な風景が続き有刺鉄線の策に突  
き当たる。

自衛隊弾薬支所

煤谷川は弾薬支所を貫通する形で抜け、ニュータウンに続く。コンクリートで舗装さ  
れたせせらぎ。その後、東畑集落において農業水路と混ざり分岐からはどれが煤谷川  
かがうやむやに。ただ、ここもまた木津川の、ひいては淀川の源流の一つであるとい  
う確信を得られた。

**時代ごとの地図の見比べ（縮尺 1/25000）**

市街地が増えてきている。

時代により小倉池があったりなかったりする。

大正 11 年から見てゆくと、昭和 33 年まで山は針葉樹林（赤松林）で覆われていた。昭和 42 の地図では広葉樹林（コナラ林）が目立ってくる。その後平成に入り竹林が盛んになり山全体での分布のしかたもごちゃまぜになっている。平成元年と 10 年では、地図において大きな変化はないが、現地において住民にインタビューをすると大きく変わったとのこと。

ここで一言 竹林は 100 年に 1 回（60 年に 1 回？）の周期で大繁殖をする。

1 度枯れたものの方が勢いが強い。

日が無くても育つ

竹林に人の手が入っていないのか、広大と共に荒れ方がひどい。

山の景観としては松が目立たない。

戦争が終わった時、山は坊主になっていなかったか？

航空写真を用いたが精度的にはあまりよくないのでは？昔は現地測量？

サテライト（現地 1 つ 1 つの見学場所）のための提案

サイクルステーションの整備～自転車による周遊のサポート

意図

サイクリングロードをもっと有効に使いたい

水辺でどういう事をすれば楽しいか？人の集まれる空間づくり

川遊びなど教わったことを川の中で体験できる場所作り

駐輪所を設けずバラバラの散在ながらも、人を誘導できるもの

現在、川側と村側が隔てられているのでそれらをつなぐ導線としてのサイクリングロードの整備。

コンセプトは既存のものを生かしてゆく。いじらない、触らない。

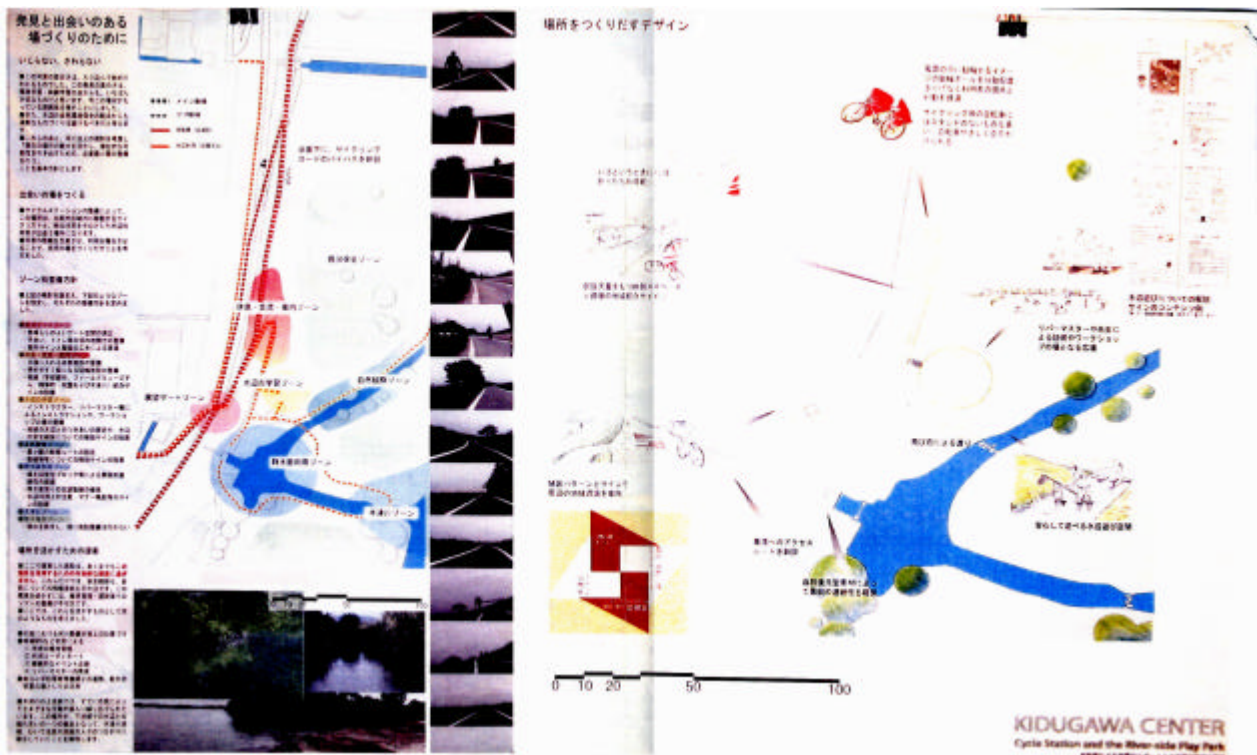


図1. サテライトの提案1

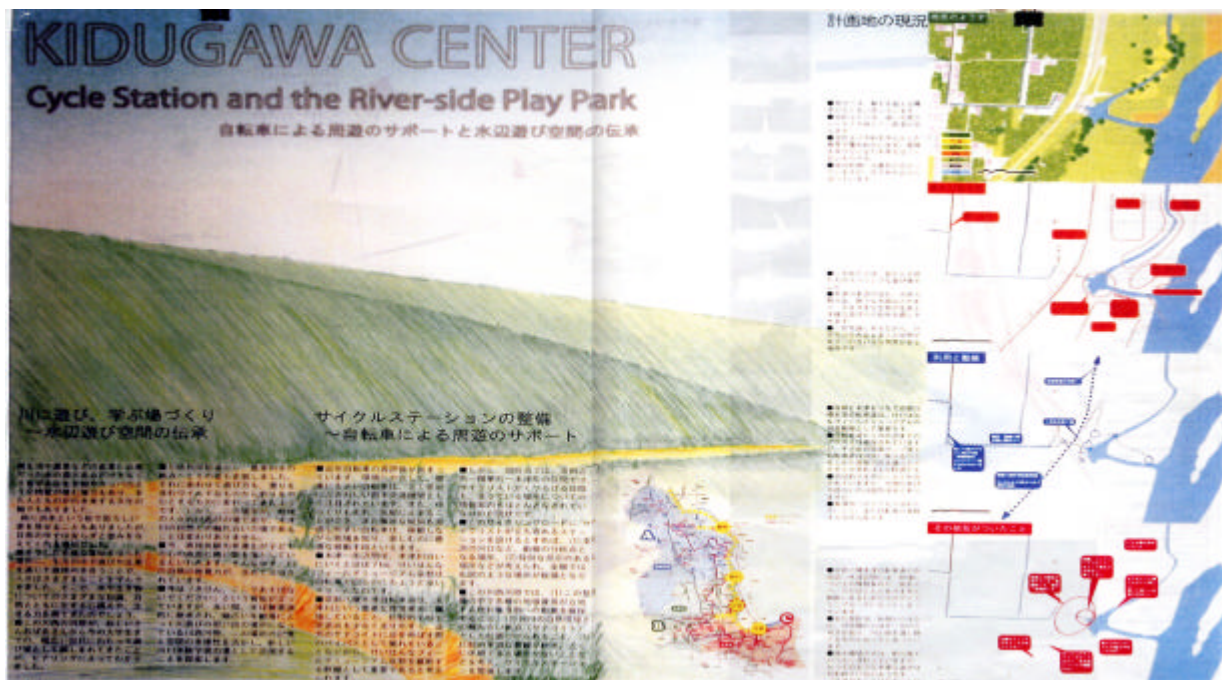


図2. サテライトの提案2

## 意見交換会にて出た意見

サイクリングしてる人が水に触れるところがあればもっと良いのではないだろうか  
(足湯のような感覚のもの)

場所は揚水上に引き込む手前の水路です

地形の形状変化はありますが中洲は安定していると思います。

洪水時には半分ぐらいが水につかります。

今回はプランニングなので住民の方には入って頂いていない

場所は提供できるが、活かしてゆけるかはそこにすんでいる人次第

その辺りなら、山代青年会議所が前線にはなってくれないか？

農村の方にも村ぐるみで景観の保全を維持してゆくなど、意識の高い人が多い。

地域の人が、地元の価値を再発見できるようなものでありたい。

今の子供達も川で遊んでいるようですが、家や学校から危ないから川で遊ぶなという意見は出ないのか？ 以前、近木川で子供が水死した事があり、それ以降木津川では遊んではいけなくなりましたが、それ以外の水路等の水辺では普通に遊んでいます。

遊びとは「泳ぎ」？「生き物取り」？

地元の調査員は泳ぎが主、昔は軍艦ごっこ等ルールを決めたゲーム的な遊びもあった。

川に物語的な舞台として捉えるといった場所的な意味、ごっこ遊びの道具といった意味合いを持たせるといったことが昔はあった。今、そういういろいろな意味を見出せる空間が必要なのではないか。

河童のような伝説的なものや逸話はなさそう。

人が川に入るのは、ある種の安心感がえられる、みたいなものがあるのではないかと？  
実際インタビューした人からは、どのような感じが見て取れましたか？

思うほど積極的に遊んだ感はない 当たり前すぎて、出なかったのかもしれない。

水の色でどこが浅いか深いか見て川を渡ったという話を聞いた時は感心させられました。

自衛隊の排水のチェックはどこかでしているのか？

煤谷川の由来は？

なぜ子供は川へ遊びに行くのか？

川沿いの地域にはなぜか溜池が少ない

サイクルステーションにおいて、飛び石を全部川の頭に出しては川と触れ合うという意味でいけないのではないかと少しは水面に沈んでいるのも欲しい。

廃棄自転車のリサイクルステーションを設けるといのは？

調査したことと、構想として出したものに落差があるのでは？

#### **最後に 木津川チームの学生さんたちへインタビュー**

Q. 今もしくは今までの川に対する認識や思い出と共に、自分に子供が出来た時少々危険でも川遊びをさせたいか？

- 1 人目 身近に川はあったが危ない汚いの意識が強く、川辺を散歩することはあっても、入るのは汚いという意識があった。今回の調査は気持ちよく、子供には少しくらい危なくても川と触れて欲しい。
- 2 人目 動物など何かを見つけられる場所。今回川はいろいろなものを結びつける場所と感じた。昔の自分でも何が危ないのかという認識はあったと思うので子供達が川で遊んでも良いと思う。
- 3 人目 昔から川が遊び場でした。今は散歩や川沿いを移動するのみ。でも、子供が川で遊べるようなところに住みたい。
- 4 人目 通学時などで心が重い時、川辺に寄り道してから行くなどしている。マイリバーが無かった分、これから子供と一緒に見つけていきたいと思う。
- 5 人目 休日に良く家族で川へ遊びに行っていた。子供にもそうしてあげたい。

6 人目 川で遊ぶのはキャンプ場など施設の中がほとんどで、1度だけ田舎へ行った時は、親の方が楽しそうだった。人と人が繋がってゆける場だと思う。